

【ベトナム】

革命イデオロギーから 夢と笑いへ

——B級映画都市サイゴンの復活

坂川直也

映画研究者四方田犬彦（二〇一二）は、アジア映画には二通りのフィルムが存在すると指摘している。国際映画祭を通して世界中に配給されるA級映画と、決して国内から出ることがなく、外国ではまったく知られる機会のないB級映画があると。

日本で販売中のベトナム映画のDVDの多くはA級映画で、残りは国策による戦争映画である。なかでも、入手しやすいのは『ノルウェイの森』のトラン・アン・ユン（監督の出身地であるベトナム南部方言ではトラン・アン・フ

ン）の作品だ。ユンは一二歳で家族とともにフランスへ移住した在外ベトナム人（越僑）監督である。四方田がA級映画を「その国の言語や社会、歴史の細やかな事情を知らない外国人にも理解できるように、普遍的なヒューマニズムを主題としたり、でなければ異国情緒を過度に強調したりするものも少なくない」（四方田二〇一二・九）と指摘した通り、ユンは、後者の異国情調を強調したフィルム群でA級監督の地位を確立した。デビュー作『青いパイヤの香り』では、幼少の頃の思い出に残るベトナムの残像を描き、カンヌ映画祭カメラドール（新人監督賞）受賞。続く『シクロ』では、自転車タクシード勤く青年、その美しい姉、「詩人」と呼ばれるヤクザの三人を取り巻く人間模様を通してホーチミン市の闇社会を描き、ヴェネツィア国際映画祭グランプリも受賞している。

一方、四方田が「もう一つの映画はきわめてローカルなものだ。（中略）観客は一般庶民。誰も作家の名前などに無頓着であり、ホラー、アクション、メロドラマ、歴史劇、コメディといったジャンルを頼りに地元の劇場に通う」と定義するB級、つまりローカルな娯楽映画だが、二〇〇〇年代中頃までベトナムでは活気がなかった。その理由はベトナム映画史と密接な関わりがある。

社会主義共和国が成立する以前、ベトナム民主共和国（北）のハノイ、ベトナム共和国（南）のサイゴン（現ホー

チミン市)では、対照的なフィルムが上映、制作されていた。北のハノイでは、ソ連、中国などの東側諸国のフィルムが上映され、国営の撮影所のもと、プロパガンダ映画(後に革命映画と呼ばれる)が制作された。革命映画の主なテーマは抗米・祖国統一と社会主義建設の二つである。一九五九年から七五年の間に劇映画は六六本制作され、当時、東側諸国の主流だった社会派リアリズム映画の影響が強く、大半がモノクロである。北の映画人の総力を結集した革命映画の代表作は、北緯一七度線で南北に分断された村を舞台に一婦人の革命戦士への成長を描いた『愛は十七度線を越えて』である。日本でも短縮版が公開された。

一方、南のサイゴンでは西側諸国のフィルムが上映され、民間会社により商業娯楽映画が制作された。一九五五年から七五年四月三〇日までサイゴンで制作された一八〇本の映画は、国営の撮影所制作の反共プロパガンダ映画を除けば、主にB級娯楽映画だった。また、国内の映画制作を支援するため、サイゴン政権は「ベトナム映画を一本制作した映画会社は外国映画三本を輸入できる」と規定した。南ではサイゴン陥落まで一五八の映画館(サイゴンだけで五二館)、四五の映画輸入配給会社(そのうちの一四社が映画制作も行っていた)があり、四九社と三つのグループが映画を制作していた。五五年から七五年まで、映画輸入会社は七五五〇本の外国の劇映画を南に輸入した。「娯

楽施設の少ないサイゴンでは、映画は市民の最大の楽しみの一つ」(牧二〇〇九・一七〇)だったのだ。

しかし、一九七五年四月三〇日、サイゴンが陥落し、ホーチミン市へと名称が変わるとともに、映画をめぐる状況も一変する。「サイゴン・シヨン地区にある五二の映画館は、(五月)十日過ぎから相次いでオープンしたが、出し物はどこも、かつてフランス軍を破った勇ましい記録映画『ディエンビエンフーの戦い』と子供向けのアニメ映画一本。アニメと言っても、村の平和を乱す他村から侵入したヘビの大群を、ひよこや子ねこが団結して追い払う「教育」映画である。一九日の故ホー・チ・ミン主席生誕八五周年以降、いくつかの映画館でこれに「ホーおじさんの生涯」が加わり三本立てとなった。(中略)「仕事もないのでヒマつぶしに入ったけど、宣伝映画で面白くもなんともない」という感想が圧倒的」(牧二〇〇九・一七〇—一七二)。さらに、新政府の映画局は、南部でゲリラ活動を展開してきた南ベトナム解放民族戦線の制作フィルムを南部の正當なベトナム映画として位置づけ、サイゴン政権下の映画を封印、映画史からも一時抹消した。サイゴンの映画人は、共産党政府を恐れて国外へ亡命した者と、国内に留まった者に分断された。しかも、国内に留まった映画人は、サイゴン時代の作品を、アメリカの影響を受けた「新植民地映画」だったとして「反省」したうえで、北の国策

革命映画路線への転向を余儀なくされた。娯楽映画受難の時代の始まりである。

一九八六年ドイモイ政策の導入を境に、娯楽映画をめぐる環境も改善されていく。まず、政府は映画の国家丸抱え制度を廃止、民間の映画会社の設立を許可した。次に、経済の活性化が国民生活を向上させ、徐々に、都市部には富裕層を増やしていった。冷戦崩壊後は、政府は、かつての西側からの映画を輸入する門戸を開放した。さらに、二〇〇六年、映画法の施行で映画館ビジネスまで民間企業も参入が可能になった。都市部において、ギャラクシーとメガスター社を中心にシネマコンプレックスが増加した。映画会社はシネコン向けの娯楽映画の制作に乗り出す。しかし、サイゴン時代の遺産を国内から排除した結果、娯楽映画の伝統は下火となっており、スタッフ、役者ともに不足していた。そこで映画会社が注目したのが、サイゴンの映画の伝統を継ぐ若き越僑たちだった。

二〇一二年現在、世代交代は進み、ベトナム映画を牽引しているのはハノイの古い国策映画世代ではなく、帰還した越僑を中心としたホーチミン市の新しい世代である。なかでも、若い世代の中心人物は俳優ダスティン・チャー・グエンである。ダスティンは、一九六二年に役者夫婦の子としてサイゴンに生まれ、一九七五年、家族とともに難民としてアメリカに渡った越僑である。ハリウッド俳優として

アメリカのテレビドラマ、映画でキャリアを積み、ジョニー・デップと共演した経歴を持つ。

ダスティンがベトナムで名を広めたきっかけは、アクション映画『英雄の血流』の冷酷な敵役からである。あらすじは、一九二〇年代仏領インドシナを舞台に、圧政に反抗するレジスタンス組織を、同じ民族でありながらフランスの手先となり弾圧する任務を帯びた主人公が、レジスタンス側の女性を愛したことをきっかけに民族意識に目覚め、フランスとの闘いに立ち上がるというものである。

その主人公の前に立ちふさがるのが、刀を跳ね返す鉄布衫^{てつぷせん}の使い手で無敵の男を演じるダスティンである。主演はジョニー・グエン。タイ映画『トム・ヤム・クン』ではトニー・ジャールと激闘を繰り広げるジョニーを演じた俳優である。監督・脚本は、主演のジョニーの実兄、チャーリー・グエン。この兄弟もアメリカ移民の越僑である。本作は、アメリカで鍛え上げられたジョニーとダスティンのマーシャルアーツによるスタントなしの格闘アクションが話題となり、それまでのベトナム映画史上最高のヒット作となった。

続く『伝説の男』では、枯葉剤の影響で知的障害を持ちながらビンディン伝統武道の達人という難役を演じ、第一六回ベトナム映画祭最優秀男優賞を受賞する。俳優として評価された後、二〇一〇年、ホーチミン市に制作会社アー

リーライザーズメディアグループを設立し、再び監督チャーリー・グエンと組み、制作・主演・脚本の三役を務めたロマンティックコメディ『愛の愚か者』を発表する。

今回は、サイゴン（劇中、ホーチミン市と言わない）の五つ星ホテルのしがなないトイレ係である。仕事中のトラブルを助けてもらった歌手志望のマイ（ドイツ出身の越僑）に一目ぼれして、彼女を追いつ、中部のリゾート地ニャチャンに向かう。路頭に迷っていたところ、靴泥棒を捕まえた縁で、ド派手なファッションに身を包んだゲイで越僑の実業家ホイと知り合う。ホイの助手として働き、マイに自分の気持ちを伝えようとするが……。本作も、興行収入三〜四百億ドン（一億二〇〇〇〜五〇〇〇万円）の大ヒットになった。ヒットした要因は以下の二点である。①観客の憧れ、羨望を作品に取り入れたこと。具体的には、セレブな場所（五つ星ホテル、レストラン、別荘など）、ブランドものの衣装、高級外車などである。②ホイ役にサイゴン出身のコメディアン、タイ・ホアを起用したこと。タイ・ホアは、地元の喜劇の舞台監督&俳優のキャリアを生かし、それまでコメディリリーフに過ぎなかったゲイ役に、愛嬌ある動作と合間に見せる寂しげな表情を加えて、観客の心を掴むキャラクターに昇華した。

このタイ・ホア人気を逃さず、ダスティンは、続けて、彼を主役のコメディをプロデュースする。二〇一一年、国

内の映画興行収入成績を塗り替えた『痣のあるドラゴン』である（写真）。監督は三度、チャーリー・グエン。ダスティンは出演していない。テオ（タイ・ホア）は片田舎の料理人である。ダサイ風体と幼稚な言動から、恋人を別の男に取られてしまう。人生を変えるため、テオはサイゴンに上京する。テオは、地元のギャングの親分「痣のあるドラゴン」と瓜二つであることが判明（タイ・ホアの一人二役）。不意打ちによる昏睡状態の親分の代役を、テオは子供達により強制的に務めさせられるのだが……というあらすじである。コメディとしては、田舎出のお人よしが都会



写真 一人二役を演じたタイ・ホア（『痣のあるドラゴン』より）

時代の映画を解禁するのか、注目である。

●参考文献

ダン・ニヤット・ミン（二〇〇六）秋葉亜子訳『ベトナム映画史』福岡市総合図書館映像ホールシネラ実行委員会。

ダン・ニヤット・ミン（二〇一〇）「アジアの映画監督に聞くその1 乱造から成熟の時代へ、ベトナム映画の二〇年」アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会「二〇周年記念アジアフォーカス・福岡国際映画祭全作品 一九九一—二〇一〇」書肆侃侃房、十六—二十一頁。

牧久（二〇〇九）『サイゴンの火炎樹——もうひとつのベトナム戦争』ウェッジ。

四方田犬彦（二〇一二）「アジア映画を観るということ はじめに」石坂健治、市山尚三、野崎敏、松岡環、門間貴志監修『アジア映画の森 新世紀の映画地図』作品社、八一—一二頁。

Công Hòa Xã Hội Chủ Nghĩa Việt Nam (2009) *Lược Diên ảnh Năm 2006 Được Sửa Đổi, Bổ Sung Năm 2009*, Hà Nội: Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia.

Nhiều Tác Giả (1983) *Góp Phần Phê Phán Diên ảnh Thực Dân Mới*, TP.Hồ Chí Minh: Nhà Xuất Bản Thành Phố Hồ Chí Minh.

Nhiều Tác Giả (1983) *Lịch Sử Diên ảnh Cách Mạng Việt Nam*, TP.Hồ Chí Minh: Cục Điện Ảnh (Bộ Văn Hóa) Xuất Bản.

Nhiều Tác Giả (2006) *Lịch Sử Điện Ảnh Việt Nam 2 Từ Giữa Năm 1975 Đến Đầu Năm 2003*, Hà Nội: Cục Điện Ảnh Xuất Bản.

や闇社会のルールを知らずに予想外の行動をとるというベタな笑いである。いよいよホーチミン市の闇社会も笑いのネタになった。本作が当たりした要因は、テオとまわりの振り回される人々との南部方言による早口の掛け合いが絶妙で子供にもウケて、親子連れが映画館に駆けつけたためである。コメディでありながら、ベトナムのアカデミー賞にあたる賞で準グランプリを、タイ・ホアは最優秀男優賞、チャーリー・ゲンは最優秀監督賞を受賞した。

ダスティンは娯楽映画のプロデューサーの傍ら、若手監督の野心的な芸術映画にも出演している。南部デルタの運河を船で漂い、根無し草生活を送る一家を描いたゲン・ファム・クアン・ビンの『果てしない野』では主役も務めた。現在、ベトナム映画は、越僑の協力のもと、ホーチミン市よりむしろ、住民の言葉に従えば、サイゴンにおいて、二枚目アクション、三枚目コメディアンと、スターが復活し、B級娯楽映画がかつての活気を取り戻しつつある。映画産業も右肩上がりで成長し続けている。観客が映画に期待するものも、革命イデオロギーから夢と笑いへ変貌しつつあり、『燃える草の香り』のような政府支援の革命映画にはなかなか劇場まで足を運ばなくなった。今後、ベトナム政府は中国映画『建国大業』、『建党偉業』路線、つまり、オールスターキャストによる国策映画路線を採るのか、さらに、いままでも国内上映を禁止してきたサイゴン

映画リスト

『愛の愚か者』……① *Dê mai tính* [明日を考慮するために]、② チャーリー・ゲン、③二〇一〇年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥未公開。

『愛は十七度線を越え』……① *Vĩ tuyến 17 ngày và đêm* [十七度線 昼と夜]、② ハーイ・ニン、③一九七二年、④ベトナム (民主共和国)、⑤ベトナム語、英語、⑥劇場公開 (一九七八)。

『青いパパイヤの香り』……① *Mùi đu đủ xanh* / *L'odeur de la papaye verte*、② トラン・アン・ユン (トラン・アン・フン)、③一九九三年、④ベトナム、フランス、⑤ベトナム語、⑥劇場公開 (一九九四)、DVD販売。

『赤い星の生まれ』……① 建党偉業 / *Beginning of the Great Revival*、② ハン・サンピン (韓三平)、ホワン・ジエンシン (黄建新)、③二〇一一年、④中国、⑤中国語、フランス語、ロシア語、英語、⑥日本・中国映画週間 (二〇一一)。

『雫のあるドラゴン』……① *Long ruler*、② チャーリー・ゲン、③二〇一一年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥未公開。

『英雄の血流』……① *Dòng máu anh hùng*、② チャーリー・ゲン、③二〇〇七年、④ベトナム、⑤ベトナム語、フランス語、⑥未公開。

『建国大業』……① *The Founding of a Republic*、② ハン・サンピン (韓三平)、ホワン・ジエンシン (黄建新)、チェン・カイコー (陳凱歌)、ピーター・チャン (チェン・コーシン、陳可辛)、③二〇〇九年、④中国、⑤中国語、英語、⑥東京・中国映画週間 (二〇〇九)。

『シクロ』……① *Xích lô*、② トラン・アン・ユン (トラン・アン・フン)、③一九九五年、④ベトナム、フランス、香港、⑤ベトナム語、⑥劇場公開 (一九九六)、DVD販売。

『ディエンビエンフーの戦い』……① *Chiến dịch điện biên phủ* [ディエンビエンフーの戦勝]、② チャン・ベト、③一九六四年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥未公開。

『伝説の男』……① *Huyền thoại bất tử* [不死の伝説]、② リュー・フィン・リユー、③二〇〇九年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥アジアフォーカス・福岡国際映画祭 (二〇〇九)、東京国際映画祭 (二〇一〇)。

『トム・ヤム・クン』……① *Tom Yum Goong* / *The Protector* / *Warrior King*、② ブラッチャヤー・ブンゲーオ、③二〇〇五年、④タイ、⑤タイ語、英語、中国語、ベトナム語、⑥劇場公開 (二〇〇六)、DVD販売。

『果つしない野』……① *Cánh đồng bất tận*、② ゲン・ファム・カン・ビン、③二〇一〇年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥未公開。

『ノルウェイの森』……① *Norwegian Wood*、② トラン・アン・ユン、③二〇一〇年、④日本、⑤日本語、⑥劇場公開 (二〇一〇)、DVD販売。

『燃える草の香り』……① *Mùi cỏ cháy*、② ゲン・フー・ムオイ、③二〇一一年、④ベトナム、⑤ベトナム語、⑥未公開。

著者紹介

①氏名……坂川直也 (さかがわ・なおや)。

②所属・職名……京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研

究科・博士課程（東南アジア地域研究専攻）在籍。

③ 生年・出身地……一九七二年、大阪府。

④ 専門分野・地域……ベトナム地域研究。

⑤ 学歴……日本大学芸術学部、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程（東南アジア地域研究専攻）。

⑦ 現地滞在経験……ベトナム（主夫、三五歳、二年間、現地調査）。

⑧ 研究手法……①現地の映画館、フィルム・アーカイヴでひたすら映画を観る。②DVD屋でDVDを、古本屋で映画雑誌を買いあさり、読む。③映画関係者への聞き取り調査。飲酒。④図書館で映画の元ネタをコピーする。帰国時、苦勞の末、集めた資料を空港で公安にボルノと間違われて没収されかけた苦い体験が映像の裏を推測するのに少しは役立っているかもしれません。

⑨ 所属学会……東南アジア学会。

⑩ 研究上の画期……一九七五年四月三〇日、サイゴン解放と陥落。ベトナムをとらえるうえで、首都ハノイだけではなく、ホーチミン市、さらにサイゴンからの視点も取り込み、より複眼的な視野が必要だと感じつつあります。

⑪ 推薦図書……近藤紘一『サイゴンから来た妻と娘』（文春文庫、一九七八年）。

⑫ 推薦する映画作品……『残酷ドラゴン 血闘竜門の宿』（原題『龍門客棧』、キン・フー監督、一九六七年、台湾）。

【カンボジア】 都市の混沌と錯綜する 想い

岡田知子

「立派な屋敷が立ち並び大勢の人々が行き交う都会に、ソバートはとくに不安を感じなかった。さまざまな車が大通りを走っていた。彼は目を丸くし、心躍らせながら四方八方を見渡した。」これはカンボジア初の散文小説『ソバート』（ルム・クン著、一九三八）の一節である。生き別れた父を捜すという固い決意を持って単身上京した少年ソバートは、初めてのプノンペンに臆することはないが、生まれ育ったタイ国境近くの町との差異に驚きを隠せない。この状況は六〇年近くたっても変わらない。『戦争のあと